

備前市事務事業評価表

事業の概要		コード	06-01-15-01
事務事業名	福利厚生事業	根拠法令・要綱等	地方公務員法第42条 労働安全衛生規則第44条
事業開始年度	平成17年度～	問合せ先	総務課 職員係長・石原史章 電話 0869-64-1808
総合計画	大項目	基本目標	健全で自立したまちづくり
	中項目	基本施策	簡素で効率的な行政運営
	小項目	施策	人事管理

事業の実施	
対象 (誰・何に対して)	全職員
目的 (何のために)	職員の福利厚生を図る事業
行政活動 (どのような方法で)	地方公務員法第42条に基づき、職員の保健、元気回復その他厚生事業
事業の意図する成果 (どのような状態にしたいのか)	健康診断や人間ドック等を通じて職員全員が健康増進に関心を高め、健康体を維持することで公務の効率向上を目指す

事業の実績						
活動実績	実施項目		単位	平成17年度実績	平成18年度実績	平成19年度実績
	定期健康診断受診者数	人		475	416	293
	職員表彰受賞者数	人		25	19	10
	直接事業費	千円		5,408	5,184	4,249
	人件費	千円		5,130	5,320	559
	事業費計	千円		10,538	10,504	4,808
	国県支出金	千円				
	受益者負担	千円				
	市一般財源	千円		10,538	10,504	4,808
	必要人員	人		0.75	0.80	0.07
結果指標	結果指標名		単位	平成17年度実績	平成18年度実績	平成19年度実績
	定期健康診断受診者数	説明		475	416	293
結果指標	結果指標量	人		475	416	293
	対前年比	%		-	87.6%	70.4%
結果指標	活動コスト	円		8,837,000	9,169,000	4,703,000
	単位当たりコスト	円		18,604	22,041	16,051
結果指標	職員表彰受賞者数	説明		25	19	10
	結果指標量	人		25	19	10
結果指標	対前年比	%		-	76.0%	52.6%
	活動コスト	円		1,701,000	1,335,000	105,000
結果指標	単位当たりコスト	円		68,040	70,263	10,500

事業の成果			
成果指標名	受診率	式又は説明	実受診者数 / (病院事業会計職員・学校職員を除く臨時職員を含む全職員・共済人間ドック受診者)
	17年度	18年度	19年度
成果指標量	99.0%	99.0%	99.9%
対前年比		100.00%	100.91%
到達目標値	100.0%	到達目標年度	毎年度

事業の目的、対象、内容を考えながら目的妥当性の評価を行って下さい。

事業費や単位当たりコストに留意しながら効率性の評価を行って下さい。

事業の目的やその数値目標である成果指標に留意しながら有効性の評価を行って下さい。

事務事業の評価		(平成19年度事業)	
目的	<input checked="" type="checkbox"/> 開法令等で目的が定められており妥当である(法律・政省令)	妥当性評価<A-E>	B
	<input type="checkbox"/> 現在の市を取り巻く環境からも目的は妥当である <input type="checkbox"/> 事業開始当初の目的は、ほぼ達成されている <input type="checkbox"/> 事業開始当初の目的から変化している	課題認識	労働安全法により、事業主に課せられた義務であり、目的、対象、市の間とは妥当である。市民ニーズからいえば、市職員の健康を確保することにより、行政コストが下がるといえるが、ニーズがあるといえるが、2次のニーズである。職務上功績のあった者や永年勤続し、その成績が他の模範となる者などを新年互例会において表彰することによって、職員の公務に献身する意欲を高める必要がある。
行政活動	<input type="checkbox"/> 事業の目的を達成するためには、現在の行政活動以外に方法はない	効率性評価<A-E>	C
	<input type="checkbox"/> 現在の市を取り巻く環境からも事業の意図する成果を見直す必要はない	課題認識	現在の手法は、専門の集団検診業者による指名競争入札を執っており、共済組合福祉事業の人間ドック受診者は、ドックの結果表のコピー提出で集団検診を免除しており、コスト削減は徹底している。結果表により、病院等での再検査を勧告しており十分な活用をしている。平成19年度に保健課の年2回受診を見直したと、対象者職員の絶対数の減による結果、受診者数が3割減となっている。表彰は、毎年表彰される人数が異なることから、単位あたりの効率性の評価は困難であるが、20年度から記念品なしとした。入件費において、19年度は係る必要人員が明確化されたため、コスト削減となっている。
市の関与	<input type="checkbox"/> 本市、団体などから要望・要請の強い事業である	有効性評価<A-E>	C
	<input checked="" type="checkbox"/> 本市が関与しなければならない事業である <input type="checkbox"/> 事業を取り止めた場合の市民への影響は大きい <input type="checkbox"/> 事業を取り止めた場合の市民への影響は克服できる範囲内である	課題認識	事業主に課せられた事業であり、職員の健康管理に必要かつ有効な事業であることから、受診については積極的に奨励している。受診率は増え続けているが、職員が健康であるためへの積極的な取組みが今後の課題と考える。職務上功績のあった者や永年勤続し、その成績が他の模範となる者などを表彰することが、職員の公務に献身する意欲を高める真に有効なものを検討する必要がある。
コスト	<input type="checkbox"/> コスト削減の努力をしており、低減余地は大きい	有効性評価<A-E>	C
	<input checked="" type="checkbox"/> コスト削減の努力はしているが、低減余地は小さい <input type="checkbox"/> サービスを低下させずにコストを低減することは困難 <input type="checkbox"/> 受益者負担額を見直す余地がある	課題認識	事業主が健康であるためへの積極的な取組みが今後の課題と考える。職務上功績のあった者や永年勤続し、その成績が他の模範となる者などを表彰することが、職員の公務に献身する意欲を高める真に有効なものを検討する必要がある。
効率性の評価	<input type="checkbox"/> サービスを維持するためこれ以外、他に手段が見当たらない	有効性評価<A-E>	C
	<input checked="" type="checkbox"/> 最適な手段を求め職場内で改善に努めている <input type="checkbox"/> 現在の手段は過剰なサービスのため、改善の余地がある	課題認識	事業主が健康であるためへの積極的な取組みが今後の課題と考える。職務上功績のあった者や永年勤続し、その成績が他の模範となる者などを表彰することが、職員の公務に献身する意欲を高める真に有効なものを検討する必要がある。
職場	<input checked="" type="checkbox"/> 事業に関して事務改善等作業効率の向上に努めている	有効性評価<A-E>	C
	<input checked="" type="checkbox"/> 事業に関するOJT(職場研修)は行われている <input checked="" type="checkbox"/> 事業実施について、職員の意見・要望が反映されやすい	課題認識	事業主が健康であるためへの積極的な取組みが今後の課題と考える。職務上功績のあった者や永年勤続し、その成績が他の模範となる者などを表彰することが、職員の公務に献身する意欲を高める真に有効なものを検討する必要がある。
目的達成度	<input checked="" type="checkbox"/> 成果指標の目標値は目標年度に達成できそうである	有効性評価<A-E>	C
	<input checked="" type="checkbox"/> 成果指標は前年度より向上している	課題認識	事業主が健康であるためへの積極的な取組みが今後の課題と考える。職務上功績のあった者や永年勤続し、その成績が他の模範となる者などを表彰することが、職員の公務に献身する意欲を高める真に有効なものを検討する必要がある。
成果向上の可能性	<input type="checkbox"/> 成果は向上しており今後も向上する見込みである	有効性評価<A-E>	C
	<input type="checkbox"/> 今後、成果指標は向上する余地がある	課題認識	事業主が健康であるためへの積極的な取組みが今後の課題と考える。職務上功績のあった者や永年勤続し、その成績が他の模範となる者などを表彰することが、職員の公務に献身する意欲を高める真に有効なものを検討する必要がある。
市民参画度	<input checked="" type="checkbox"/> 事業について積極的に情報提供している	有効性評価<A-E>	C
	<input type="checkbox"/> 事業実施等で積極的に市民意見を反映している <input type="checkbox"/> 事業にはNPO、ボランティア団体等が参画している <input type="checkbox"/> 事業のプラン作りから市民参加を得る手段をとっている	課題認識	事業主が健康であるためへの積極的な取組みが今後の課題と考える。職務上功績のあった者や永年勤続し、その成績が他の模範となる者などを表彰することが、職員の公務に献身する意欲を高める真に有効なものを検討する必要がある。

平成20年度の状況		説明	健康診断は、腹囲測定又は保健指導を新しく取組むことにより、より充実した職員の健康管理に努めている。 職員表彰は、1人当たりの記念品の額を、平成19年度に5万円から1万5000円に減額し、平成20年度は記念品なしという見直しを行っている。		
<input type="checkbox"/> 重点化している	<input type="checkbox"/> 休止している				
<input type="checkbox"/> 前年度と同様に継続している	<input type="checkbox"/> 他の事業と統合している				
<input type="checkbox"/> 見直し継続している	<input checked="" type="checkbox"/> 平成19年度で真正・完了				
<input checked="" type="checkbox"/> 事業を縮小している					
目標値	結果指標量	受診者数(全員)	結果指標量	受診率	99%以上
	成果指標量	定期健康診断全職員受診率			99%以上

総合評価		評価区分 <A-E>	B
労働安全衛生法により事業主に課せられた義務であり、結果表も十分活用されている。H19年度から継続している保健指導により、職員衛生委員会を活用しながらも職員自身が健康であることの大切さを認識する必要がある。 職員表彰は、被表彰者はもちろん、他の職員が公務に献身する意欲を高めるために、平成20年度から記念品の授与を廃止したが、真に有効なものとなっているか検証する必要がある。			

平成21年度以降の方向性	
<input type="checkbox"/> さらに重点化する(行政資源を集中的に投入する)	<input type="checkbox"/> 事業の縮小を検討する
<input type="checkbox"/> 現状のまま継続する	<input type="checkbox"/> 休止・廃止を検討する
<input checked="" type="checkbox"/> 見直しのうえで継続する	<input checked="" type="checkbox"/> 平成20年度で廃止・完了

平成21年度以降の改善事項			
評価の視点	改善内容	改善時期	改善により期待される効果
有効性	更なる受診後のケア対策と、メタボリックシンドローム予防車の生活習慣の改善対策に努める	平成21年度	治療への意識向上と、生活習慣を改善することへの動機づけをすることで、職員の健康被害を未然に防ぐ

